

# トウモロコシのグリーンな栽培体系

海草振興局農業水産振興課

時期		作業内容	グリーンな栽培技術
4	上	ほ場準備	
	中		
	下		
5	上	播種	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・できるだけ深く耕す</li> <li>・畝幅120cm、高さ10～20cmの平畝を作る</li> <li>・基肥 (kg/10a) N : 23 P : 30 K : 20</li> <li>・ポリマルチを敷設</li> </ul> </div>
	中		
	下		
6	上	収穫	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1か所3～4粒ずつ、深さ3～4cmにまく</li> <li>・は種後は十分に水をやり発芽までは土が乾かない程度にかん水する</li> </ul> </div>
	中		
	下		
7	上	片付け	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雄穂は最上部の1本を残し早めに取り除く</li> <li>・実入りを確かめてから気温の低い早朝に収穫する</li> <li>・錦糸が出て20日前後が収穫の目安</li> </ul> </div>
	中		
	下		
8	上		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポリマルチを回収</li> </ul> </div>
	中		
	下		
9	上		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>生分解性マルチ を敷設</b></p> </div>
	中		
	下		
10	上		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>生分解性マルチ をすき込む</b></p> </div>
	中		
	下		
11	上		
	中		
	下		
12	上		
	中		
	下		
1	上		
	中		
	下		
2	上		
	中		
	下		
3	上		
	中		
	下		

# レタスのグリーンな栽培体系

海草振興局農業水産振興課

時期		作業内容	グリーンな栽培技術		
4	上	<p>(苗) ほ場準備</p> <p>↓</p> <p>定植</p> <p>↓</p> <p>収穫</p> <p>↓</p> <p>片付け</p>			
	中				
	下				
5	上				
	中				
	下				
6	上			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5,500~6,500粒/10aの種子を用意する</li> <li>・ 128穴又は200穴のセルトレイに播種し育苗する</li> <li>・ 基肥 (kg/10a) N : 30 P : 30 K : 30</li> <li>・ 畝幅145cm、株間30~35cmの3条植え</li> <li>・ ポリマルチを敷設</li> </ul>	<div style="border: 2px solid green; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">生分解性マルチ を敷設</div>
	中				
	下				
7	上				
	中				
	下				
8	上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本葉3~4枚の頃に定植する</li> </ul>			
	中				
	下				
9	上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 12月上中旬頃、寒凍害を受ける前にトンネル被覆する</li> <li>・ 外葉形成期から結球木の乾燥は、品質や収量を低下させるので、水管理には注意する</li> <li>・ 収穫は8分結球を基準として十分予措を行う</li> </ul>			
	中				
	下				
10	上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ポリマルチを回収する</li> </ul>	<div style="border: 2px solid green; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">生分解性マルチ をすき込む</div>		
	中				
	下				
11	上				
	中				
	下				
12	上				
	中				
	下				
1	上				
	中				
	下				
2	上				
	中				
	下				
3	上				
	中				
	下				

# 露地野菜における 生分解性マルチの活用

## ➤ 生分解性マルチとは

土中の微生物により分解されるマルチフィルム  
収穫後はトラクターですき込めばよいため  
マルチ除去と廃棄の手間、コストが省ける

Point

## 生分解性マルチの利点

- ・マルチ回収作業が不要
- ・廃プラの処理量と費用の削減  
環境負荷の軽減につながる



## 生分解性マルチの課題

- ・ポリマルチと比較して高価
- ・長期保管ができない  
価格の低下が普及のカギ

## コストの比較 (10aあたり)

	生分解性マルチ	ポリマルチ
資材費 参考価格	約49,000円 (14,000円×3.5本)	約15,000円 (4,200円×3.5本)
廃プラ処理費	—	約 2,000円
片付け作業費	—	約13,000円
合計	約49,000円	約30,000円

注) マルチ規格 (生分解) 0.018×150×200m (ポリ)0.02×150×200m  
 廃プラ処理費は 50円/kgで計算。重量は処理時に2倍になるものとして換算  
 片付け費用は 時給1,500円、3人で3時間かかるとして算出

# 生分解性マルチの検証

## ○ トウモロコシ 令和4年

マルチング 5月26日  
収穫 7月  
すき込み 8月2日



## ○ レタス 令和4年

マルチング 9月1日  
収穫 10月  
すき込み 10月28日



両品目ともマルチの違いで  
生育・収量等に影響はなかった

Point

マルチャーでの敷設も問題なく、  
ポリマルチと同等に扱える



生分解性マルチをすき込んだ後に  
他の野菜を栽培しても影響はなかった  
(2回すき込めば残渣もほとんど気にならない)

### 使用上の注意点

ナス等の栽培が長期にわたるものについては  
栽培期間中に破れてくる可能性

ポリマルチと比較して価格が約3倍となるが、  
廃棄物としての処理の手間、費用を勘案すると  
コスト差は縮まる

農業の環境負荷に注目が集まる中、環境負荷低減  
技術として導入しやすい

check

導入する価値はある